

平成26年度 第4回江別市行政評価外部評価委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成26年11月6日（木） 15:00～16:20

場 所：江別市民会館 32号室

出席委員：加藤敏文委員、千里政文委員、井上宏子委員、小野孝雄委員、喜多馨委員、
中井和夫委員、中尾敏彦委員（計7名）

欠席委員：山下善隆委員

事務局：企画政策部山田部長、政策推進課千葉課長、西田参事、中島主査、長谷川主任

会議概要

1 開会

2 議事

（1）第6次江別市総合計画における外部評価制度について

【前回の審議結果の確認（論点1・論点2）】

小野委員

論点2の審議結果について、議事録を確認すると確かに資料のとおりまとまっているが、そのあとに井上委員長の見解として、「外部評価委員が評価したいと考える事業についても対象にできるということも付け加えておくとよい」とある。この点に関しては、私も賛成であるので、井上委員長の見解ではなく、外部評価委員会の意見として審議結果に加えた方がよいと考える。

井上委員長

市で重要度・優先度等を勘案して選択した事業以外にも、社会情勢の変化によって市民の関心が高い分野が出てきた場合などには、外部評価委員会の意見で外部評価の対象として取り上げることができるようにすべきではないかという趣旨の発言をした。

この点についても委員会の意見とし、審議結果に付け加えることとしてよろしいか。

（ 異議なし）

【論点3の議論：外部評価の対象の選定方法】

小野委員

前回の会議の中で、毎年度全戦略を外部評価の対象にしてほしいと要望した。そのため委員の数を増やして、分科会形式で実施してほしいという要望もした。本日の資料に記載された内容からは、そのような手法は考えていないように見受けられるが、是非真剣に検討してほしい。

これまでの外部評価結果を見ると、外部評価委員会から指摘を受けたまま改善されていないケースがあったが、毎年度全戦略を対象とすれば、3年の間に一つの戦略を3回チェックする機会があるので、1回目指摘された部分がどのように改善されたか、あ

るいはどのような理由で改善できないのかといったことを2回目以降に確認できる。

また、委員の構成に関して、戦略2や戦略3は専門性の高い分野であるから、外部評価するには単なる学識者・有識者だけではなく、その分野の専門家を委員に入れるべきである。外部評価委員会の設置要綱も「専門家及び市民の視点で評価」となっている。専門家を入れるためにも委員の数を増やして、分科会形式で3年間きちんと継続してチェックすべきである。

井上委員長

外部評価委員会の委員構成や分科会形式の採否については、当委員会ではなく、市長が予算化等も含めて外部評価委員会をどのように位置付けるか検討した上で判断することである。要望として述べることはできるが、論点3に関する当委員会の結論として出すことはできない。

小野委員

報告書の内容の話題になるが、私が述べた要望を委員会の意見として載せていただきたい。それができない場合は、小数意見としてでも明記してほしい。

井上委員長

報告書のまとめは当委員会で責任を持ってやらなければならないことであるので、その点に関しては承っておきたい。

小野委員のおっしゃるように、新しい総合計画のスタートに合わせて、本当に正しい評価を追求するために専門性の高い委員が外部評価すべきという意見もあれば、外部評価は客観性を持たせるのが目的であって一般市民の感覚で評価すればよいという意見もある。あるいは、内部評価がしっかりしていればよいのだから、予算を拡大してまで外部評価する必要があるのかという意見もある。したがって、まず論点3の外部評価の対象の選定方法について結論を出したうえで、それに関連して委員の増員や分科会形式、専門家の選任なども要望としてまとめるかどうか議論したい。他の委員のご意見はいかがか。

中尾委員

委員会の体制やあり方といったことは、今日の議題ではないので、別な機会にしなければ議論が進まないと考える。今日はあくまでも想定されている体制の中で外部評価を実施する場合に 案と 案のどちらがよいかをまず決めるべきである。

喜多委員

中尾委員の意見に賛成である。小野委員のご意見もわかるが、委員会の体制の議論に集中してしまうと今日の議題から離れてしまって議論が進まない。

中井委員

外部評価の対象の選定方法を議論するには、まずどのような委員会の体制とするかを議論しなければならないと考える。

また、市民委員もそれなりに知識のある人を選べるような方法で公募すべきである。一般市民の感覚だけを求めて選ばれた委員だと、これだけの作業をこなすのは難しいの

ではないか。委員の増員や専門的な知識のある委員で委員会を構成するという考え方を否定的に捉えるべきではない。

井上委員長

それぞれお考えはあろうかと思うが、この件に関しては報告書としてまとめる段階で要望として付け加えることとし、その内容は最後に各委員からご意見をいただいてまとめることとする。

論点3について、案と案のどちらとすべきかご意見をいただきたい。

中尾委員

第5次総合計画のときは1施策約1時間かかったということだが、第6次総合計画では何回開催して何事業ずつ外部評価できるという目安はあるか。

事務局

えべつ未来戦略を構成する事業数は63事業、重複を除いても42事業ある。施策と事業の違いがあり、単純に比較はできないが、1事業に1時間程度かけるとすると全事業評価するのに42時間かかる。開催回数としては、平成22年度から24年度は1年間に5回程度である。全事業を毎年度評価するとなると、1つの事業の評価にかかる時間がかなり少なくなってしまうと思われる。

先ほど議論になっていた委員会の開催回数や委員の人数等については、市長の判断や予算措置を伴う内容であり、現時点で結論を出すことはできないが、井上委員長のおっしゃったとおり報告書の中で要望として出していただくことは可能である。

加藤委員

前回外部評価委員として携わった経験から申し上げますと、案の3年で全戦略を評価する方がよいと考える。そのときに、論点2で確認したとおり、えべつまちづくり未来構想のまちづくり政策の中からも、重要度・優先度や社会情勢、あるいは評価対象とする戦略との関連性などから判断して外部評価の対象を選定し、各年度の外部評価対象を決定すればよい。

中井委員

えべつ未来戦略は原則毎年度全戦略を評価すべきではないか。個々の事業まで全てを細かく評価するから時間がかかるので、戦略を構成する事業のうち、どの事業を評価の対象とするか外部評価委員会で選べばよいと考える。毎年度評価結果を担当部署へフィードバックすることができ、予算措置への反映もできるというメリットがある。特定の戦略しか評価しないと、3年に1回しか評価対象にならないため、担当部署に対するインパクトが非常に弱くなってしまう。繰り返しになるが、どの事業を評価対象とするかは、資料を提出する事務局側ではなく、実際に外部評価を行う外部評価委員会側で決めるべきである。

井上委員長

外部評価委員会で外部評価対象とする事業を全て決めるとなると、その時々を選任された委員の関心・興味のある分野に偏ってしまい、大事な事業が見落とされてしまう可

能性が出てくる。それを防ぐため、計画的に評価対象とする事業を決めておいた方がよい。個人的な興味・関心に左右されるのではなく、誰が委員に選任されても同じ評価軸となるような選定基準とすべきである。

加藤委員

戦略を構成する事業だけでも重複を除いて42事業ある。仮に5回の委員会で評価するとなると1回につき8事業以上評価することになる。それぞれの事業について活動指標や成果指標が複数設定されており、それらのチェックもしていくとなると、毎年度全ての戦略を評価するというのは物理的に無理があると思うが、事務局としてはどのように考えているか。

事務局

加藤委員のおっしゃるとおり、全戦略を毎年度評価するのは日程的に困難だと考えており、その場合は事業の詳細な内部評価結果ではなく、評価結果の概要をチェックしていただく形になると考えている。外部評価を実施する期間は、内部評価が終わる7月から予算編成が始まる10月頃までであり、その3～4か月の間に委員のみなさまにお集まりいただいて開催することになるが、全委員の都合が合う日は月に1回程度しか確保できないと思われるため、年間で4～5回程度の開催となり、全戦略を毎年度評価する場合は掘り下げた議論がかなり難しくなってしまう恐れがある。

中尾委員

やはり単年度ごとに全戦略を評価するというのは難しいので、現実的には3年で全戦略を計画的に評価するという案がよいと考える。その中で、小野委員や中井委員がおっしゃるように、外部評価委員会としてもう一度評価すべきと考える戦略や事業があれば対象にできるということにしてはどうか。

中井委員

そもそも行政による内部評価があって全事業を網羅しているわけであるから、外部評価ですべての事業を網羅する必要はない。戦略を構成する事業の中から外部評価委員会が重要だと判断するものに絞って外部評価をすることで、毎年度全戦略を評価したとしても一定の時間内で作業可能だと考える。

井上委員長

委員の構成や委員数、あるいは分科会形式などを工夫することでより効果的な手法になる可能性はあるが、それについては報告書としてまとめる際に提案として入れることとし、論点3の外部評価対象の選定方法については、案の3年で全戦略を評価する案を当委員会の結論とする。

【論点4の議論：外部評価の視点】

中井委員

視点案の に「説明は丁寧で分かりやすいか」とあるが、「丁寧」は不要ではないか。たくさん記載すればよいと誤解しかねない。分かりやすいかどうかという視点だけで十

分である。

井上委員長

の視点案の「対象・手段・意図」は、「対象・意図・手段」の順番の方がよいのではないか。

加藤委員

外部評価の対象となる予定のえべつ未来戦略や戦略を構成する事業には、活動指標と成果指標がきちんと設定されていて、それに基づいた外部評価ができる状態になっているのか。

事務局

第6次総合計画を策定する際には、活動指標・成果指標をしっかりと設定するよう各所管に依頼して作業を進めたところではあるが、どうしても数値の取得が困難なものについては、成果指標を設定すべきところでもやむを得ず活動指標的な数値を用いているものもある。

井上委員長

各指標については、行政が内部評価作業の段階で設定済みであり、外部評価委員会で指摘する部分ではないが、その捉え方が間違っている場合には内部評価が甘いという指摘をすることになる。

小野委員

戦略4の成果指標に、「江別市の認知度の道内順位」(現状20位、目標18位)というものがあるが、道内35市中の順位という漠然としたものではなく、石狩振興局管内の近隣市との比較に限定した方が、総合計画の「まちづくりの基本理念」に照らしてもよいのではないか。それと、「・・・と思う市民割合」という指標が多用されているが、たとえば40%が50%になることにどのような意味があるのか、目標を達成すると何が変わるのかといったことを、もう少し掘り下げて詳しく説明を記載してほしい。

井上委員長

指標設定の背景が分からない状態では、市民に対して説明不足であり、情報提供のあり方をもう少し丁寧に工夫すべきである。指標の設定にあたっては、指標が独り歩きしないためにも、何を意図して設定している指標なのかが市民に見えるよう意識していただきたい。

先ほど視点 から「丁寧」を削除した方がよいという意見があったが、小野委員の意見のように、やはり行政の内部評価には市民に対する説明としての丁寧さも必要であるため、「丁寧」という文言は残すこととしたい。

論点4の外部評価の視点案で挙げられた4つの視点以外に、何か付け加える視点はあるか。

中井委員

行政改革の要素については評価の視点には入れなくてよいか。

井上委員長

そこまで踏み込むと、評価の視点ではなく外部評価の目的や理念の議論に戻ってしまうことになるので、議論するとしても別な機会とすべきである。

それでは、事務局案として提示していただいた4つの視点をそのまま委員会の結論とする。

【論点5の議論：外部評価作業の流れ】

小野委員

勉強会には市の職員も参加して、外部評価委員からの求めに応じてその場で説明いただけるのか。それとも外部評価委員だけの勉強会か。

事務局

そもそも内部評価結果は、基本的には書面の評価調書を見ただけで分かるようになっているべきものと考えている。したがって、外部評価委員会と事務局でまず評価調書をもとに勉強会を行い、事務局で対応可能な範囲については質問等にお答えしたうえで、分からない部分については担当部局とのヒアリングを実施するという形を考えている。

小野委員

要望であるが、勉強会のときにオブザーバーのような形で担当部局に参加してもらいたい。評価の議論を混乱させないために、事前に委員の理解度を高めておくことが重要であるので、勉強会で分からない点について何らかの形で担当部局に説明してもらえようようにしていただきたい。

井上委員長

勉強会にどの程度の時間をかけるべきか、どのような形で実施すべきかといったことは、委員の構成等によっても変わってくるので、小野委員の意見も参考にしながら、次年度以降外部評価委員になられた方に担当部局からのヒアリングが必要かどうか検討していただくとよいと考える。

外部評価作業の流れについては、事務局案に対して指摘等無いようなので、論点5についてはこの案で整理する。

(2) 報告書の取りまとめについて

事務局

これまでの議論を踏まえて委員長・副委員長と事務局で協議のうえ、報告書(案)を取りまとめて、次回の委員会に諮りたいと考えている。

井上委員長

報告書の取りまとめ方については、そのような方法でよろしいか。

(異議なし)

3 その他

次回委員会の日程調整について

4 閉会